

施設ピーマンでの天敵製剤の使い方！ ～害虫の天敵をうまく使って害虫を退治しよう～

【1 成果概要】

- (1) 施設ピーマンで、アザミウマ類の天敵であるスワルスキーカブリダニ剤（以下、スワルスキー）を5月下旬に放飼すると、果実の被害を抑えることができます。
- (2) スワルスキーの放飼時には、ピーマン1株に1花以上が必要です。
- (3) スワルスキーの放飼後は、施設の開閉によりできるだけ夜間の低温や日中の高温条件を緩和します。また、できるだけ施設内の湿度を高めることで、スワルスキーを早く増殖させることができます。



図1 スワルスキーカブリダニ（体長 約 0.3mm）



図2 ヒラズハナアザミウマによる被害果

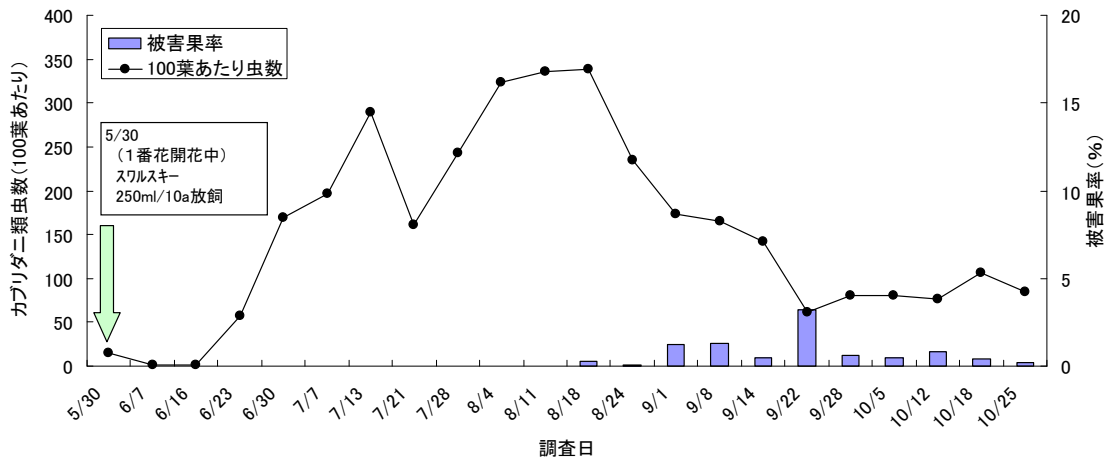


図3 スワルスキーカブリダニの葉での寄生数と果実被害果の発生状況（北上市 H23）

【2 留意事項】

- (1) スワルスキーは、害虫の他にピーマンの花粉を食べて生存できます。よって、アザミウマ類の発生前の放飼が効果的です。
- (2) スワルスキーの放飼前にピーマン株上にアザミウマ類が寄生している場合は、化学合成農薬による防除を実施した後に放飼します。その際、殺菌剤、殺虫剤の中にはスワルスキーに影響の大きいものがあるので、メーカー資料等を参考に影響の少ない剤を選定します。